

事務事業評価における総括

部 局 名	会計課	記入責任者	石山 弘行
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>施策指標について、資金運用実績額（歳計現金）、資金運用実績額（基金）及び例月出納検査の指摘事項件数のそれぞれについて、目標値を下回る結果となりました。</p> <p>目標の達成に向けて、事業手法の見直しが必要であることを認識し、引き続き、各事業を実施していきます。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>資金運用実績額（歳計現金）及び資金運用実績額（基金）については、経済情勢の影響により金利の低水準が続いていることから、目標を達成することが難しい一面があると考えます。また、各課かいから提出された予算執行計画の変更又は支出命令等が集中することによる資金不足を回避するため、特定目的基金からの繰替運用が行えるように条例改正を行いました。しかし、繰替運用を行ったため、基金の運用期間が短くなってしまい、目標を下回ってしまいました。</p> <p>例月出納検査の指摘事項件数については、指摘事項の内容から、会計課と監査事務局の審査における観点の違い及び各課かいにおける実務と伝票の起票方法の違いが起因しているものもあると分析します。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>職員並びに指定金融機関等からの財務会計システムの操作及び事務手続きに関する問い合わせ等への対応に時間を割いてしまう等の理由から、日々の業務が繁雑となり、会計課職員の負担が軽減されない現状があります。会計課職員の業務負担を軽減すること、かつ、危機管理の観点からも、全職員一人ひとりの財務事務の向上を図る必要があることから、会計事務のより適正な事務を推進するために、引き続き、周知及び研修方法等の改善を行います。</p> <p>資金運用については、経済情勢の影響を考慮し、様々な観点から安全かつ効果的な運用方法の検討を行います。資金管理については、資金不足に陥らないよう、各課かいからの予算執行計画をできるだけ正確な収支予定を報告させ、資金計画の精度を上げることで、残高不足がないよう運用原資の確保を行います。</p> <p>例月出納検査での指摘事項については、伝票審査における観点と伝票起票における運用方法について関係課と調整し、審査事務における会計課職員及び各課かい職員の財務事務の負担軽減を行います。</p>			